

令和五年 第一回例会

観世流

# 緑泉会

令和五年

四月二日(日)

午後一時開演

矢来能楽堂



「阿漕」 シテ 津村 禮次郎 (撮影 吉越スタジオ)



「田村」 シテ 坂 真太郎 (撮影 前島写真店)

能 Noh

田

村

Tamura

.....

新井麻衣子

狂言 Kyougen

清

水

Shimizu

.....

三宅 右矩

能 Noh

阿

漕

Akogi

.....

津村 禮次郎

能田村 新井麻衣子  
坂上田村磨 童子  
旅僧 村瀬 慧

清水寺門前ノ者 金田 弘明

大鼓 安福 光雄  
小鼓 鳥山 直也  
笛 栗林 祐輔

後見 石井 寛人  
奥川 恒治

地謡 筒井 陽子  
奥川 恒成 中森 貫太  
中森 健之介 観世 喜正  
桑田 貴志 鈴木 啓吾

〔休憩二十分〕

狂言 清水

太郎冠者 三宅 右矩

主人 三宅 近成

後見 金田 弘明

仕舞 隅田川 網之段  
船橋 永島 充  
観世 喜正  
石井 寛人  
坂 真太郎  
中森 貫太  
奥川 恒成

地謡 隅田川 網之段

地謡 船橋

地謡 隅田川 網之段

〔休憩十五分〕

能阿漕

漁翁 津村 禮次郎

旅僧 森 常好  
從僧 館田 善博  
從僧 梅村 昌功  
浦人 前田 晃一

大鼓 亀井 洋佑 太鼓 大川 典良  
小鼓 飯田 清一 笛 竹市 学

後見 墨 敬子  
鈴木 啓吾

地謡 石井 寛人 桑田 貴志  
藤村 答 永島 充  
吉留 敬高 中所 宜夫  
中森 健之介 坂 真太郎

付祝言

〔終了予定 午後四時三十分〕

許可のない録音・撮影は一切禁止です。携帯電話は電源から切り下されい。演能や他のお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場内によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

能：田村(たむら)

東国の僧(ワキ)が都に上り、清水寺を訪れると、箒を持った少年(前シテ)と出会う。清水寺の来歴を尋ねる僧に、少年は、坂上田村磨が建立した謂われを語る。また問われるまま、少年が近隣の名所を挙げるうちに日は暮れ、やがて月が花に照り映える春の宵を迎える。少年と僧は「春宵一刻値千金」の詩文を共に口ずさみ、清水寺の桜を楽しむ。僧が名を尋ねると、少年は私が帰る所をよく見るようにと言ひ残して、境内にある田村磨の内陣へと姿を消す。(中人)

残された僧の前に清水寺門前の者(間狂言)が現れて、清水寺の縁起を語り、少年は田村磨の化身だろうと述べ、回向を勧める。夜になり僧が経を誦誦していると、武者姿の田村磨の霊(後シテ)が現れる。田村磨はかつて、鈴鹿山の朝敵を討ち国土を安全にせよ、との宣旨を受けて、軍勢を率いて観音に参り、願をかけたことを語る。そしてその観音の仏力により、見事に敵を討ち果たした有様を見せるのであった。

本曲は、清水寺の縁起の紹介や清水寺の本尊である千手観音の仏力の有り難さを描くことが中心であり、二番目物(修羅物)でありながら祝言的色彩が強い。合戦の勝者をシテとすることから「籠」(屋島)とともに「勝修羅物」と呼ばれる。

狂言：清水(しみず)

主人に水汲みを命じられた太郎冠者。野中の清水へ行きたくないのに、鬼に襲われたふりをして帰ってくる。主人は冠者が置いてきてしまった手桶を惜しがり自ら清水へ行くと言ひ出したので、冠者は先回りし、鬼の面をかぶって主人を脅す。逃げ出した主人だが、どうも合点が行かないのもう一度清水へ。そこでまた冠者は鬼に扮して脅すが…

仕舞：網ノ段(あみのだん)

桜子という我が子の身売りを悲しみ、行方を探ね旅に出た母。桜が満開の桜川にて、落花に誘われるように桜子への想いを募らせ、狂乱しつ舞う。

仕舞：隅田川(すみだがわ)

人買いにさらわれた我が子梅若丸を尋ねて、隅田川までやってきた母親。渡し守に乗船を願ひ、面白く舞うよう言われた狂女は、「伊勢物語」の在原業平の歌「名にしおはばいざ言問はむ都鳥」を引きつ、我が子への思いを込めて狂ひ舞う。

仕舞：船橋(ふなばし)

船橋(船をつなげてその上に板を置いた橋)を介して逢瀬を重ねた男と女。親は二人が会えなくなるよう橋板を外し、それを知らない男は川に落ち、沈み果ててしまう。死後も執心離れず苦しんでいた男であったが、山伏の法力よって救われるのであった。

能：阿漕(あき)

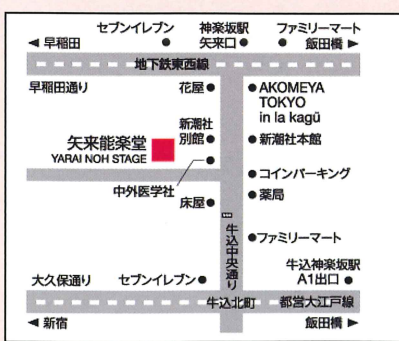
九州日向国の者(ワキ)が、伊勢神宮参詣の旅に出る。途中、阿漕が浦(今の三重県津市阿漕町あたりの海岸)に着くと、旅人は一人の老いた漁師(前シテ)に出会う。老人は旅人と、阿漕が浦にまつわる古歌について語り合う。そして旅人が「阿漕が浦」の名前の謂われを尋ねると、老人は、昔、阿漕という漁師が禁漁区で魚を取り、見つかったこの浦の沖に沈められたことを語る。(阿漕が浦は昔、伊勢神宮に供える魚のみを取るよう決められた禁漁区であった。)さらに、阿漕の霊はその罪の深さにより地獄で苦しんでいるので、弔いをなされよ…と語り、自分がその亡霊であることをほめめかし、俄かに吹いてきた疾風の中、波間に消えていく。(中人)浦人(間狂言)から阿漕の最期を聞いた旅人は、法華経を読み跡を弔う。すると夜半に阿漕の霊(後シテ)が現れ、かつての密漁の様をまざまざと見せる。さらに、地獄の責め苦にあう自らの、行き場のない苦しみを訴えながら、旅人に救いを請ひ、再び波の底へと消えていく。

2023. 4.2 (日)PM1:00 (開場 12:00)

矢来能楽堂

〒162-0805 新宿区矢来町 60  
☎ 03-3268-7311

地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩 2分  
都営大江戸線牛込神楽坂駅 A1 出口より徒歩 5分  
駐車場はございません。  
近隣のコイン駐車場をご利用下さい。



入場料

会員券 (年4回) 一般 20,000円 学生 10,000円  
1回券 (当日券) 一般 6,000円 学生 3,000円

申込先: 各出演能楽師または緑泉会まで

新井 麻衣子 TEL&FAX 04-2946-8389  
津村 禮次郎 TEL 042-386-2131  
FAX 042-386-2132

令和5年 第2回例会 2023年5月28日(日)

舞囃子 … 雲林院 Unrin-in … 墨 敬子  
能 … 草子洗小町 Soushiraikomachi … 坂 真太郎

喜多能楽堂は大規模改修工事のため、例会会場が矢来能楽堂に変更となります。ご了承ください。